



神奈中情報通信



(株)神奈中情報システム TEL:0463-22-8804 FAX:0463-22-8815

■■この「神奈中情報通信」は、私たちと何かのご縁があったかたにのみ、差し上げている通信誌です。■■

◆映画『アイミタガイ』を観てきました◆

こんにちは！お世話になっております。神奈中情報システムの米山です。今回は私が担当です。よろしくお願いいたします。

さて、先日、映画『アイミタガイ』を観てきたのですが、観ることになったきっかけは柳葉さんの映画『室井慎次 敗れざる者』でした。



私の義理の兄で映画監督である故・佐々部清はかつて柳葉さんも出てくる『三本木農業高校、馬術部』という映画を撮りました。舞台は青森県。かれこれ20年くらい前の話になりますが、私自身、青森県までロケの見学に行った際、佐々部が柳葉さんを紹介してくれまして、ひと言ふた言ですが会話をしたことがありました。とても純朴な方だなあという印象を受けたことを今でも覚えています。

そんなご縁もあり、今回、映画『室井慎次 敗れざる者』を観に行ったわけですが、本編が始まる前に新作映画の予告編が複数流れます。そこで流れた予告編のひとつが『アイミタガイ』という映画で、私は純粹に観てみたいなあと思い、帰り際に『アイミタガイ』の1枚のチラシをもらいました。

後日、ネットで予約して平塚の映画館に『アイミタガイ』を観に行きました。こちらは、中條ていによる同名小説を原作に『彼女が好きなものは』の草野翔吾監督が黒木華主演で映画化したもの。実は佐々部がこの『アイミタガイ』に関係していたということをし耳にしていたのですが、詳しいことは調べずに当日、観に行きました。



実際に観ていると、草野翔吾監督の作品であるにも関わらず場面場面で佐々部っぽい演出がされているなあと思いました。

私は作品を見終えてからパンフレットを購入。自宅に持って帰り、パンフレットの中を読み、そういうことだったのか！と、作品の中で感じた佐々部風の演出の理由がわかりました。

この作品はもともと映画監督市井昌秀さんが (2枚目へ→)

(続き→) 脚本の初稿を手がけ、それを読んで監督に名乗りを上げたのが故・佐々清監督だったのです。佐々部と市井さんは市井さんの自主映画時代からの交流があったこともあり、2017年に佐々部清の監督作として動き出した作品でした。

ところが2020年3月に佐々部監督が急逝。時を同じくして時代はコロナ禍に突入。映画の撮影どころではなくなっていました。

あれから数年の時を経て、佐々部からのバトンを受け取ったのが草野翔吾監督で、こうコメントされていました。「僕は佐々部さんにお会いしたこともなく、生前に関係性があったわけでもありません。『佐々部清』という名前の重みは大きく、その名が入った脚本の表紙をめくるまでにはものすごく勇気が必要でした」と。また、「佐々部さんが撮ろうとしていたであろうことを想像しつつ、これが自分の映画であると言えるものにするために、今、僕が撮るならば、という部分を意識して、テーマが構成にも表れるような形を目指しました」ともあり、なるほど、そういうことだったのか！と膝を叩きました。

ちなみに、『アイミタガイ』というのは『相身互い』で、誰かを思っていたことは、巡り巡って見知らぬ誰かを救い、やがて自分の元に返ってくる。誰の胸にも眠っている助け合いの心にそっとかたりかけて呼び起こし、何気ない毎日をやさしく照らす、あたたかな物語が誕生したと紹介されていて、まさに作品全体を通じてそれを感じさせてくれる映画でした。

ところで、私たちが属している小田急グループのコーポレートメッセージにこんな言葉があります。「一人ひとりが、大切な誰かを思いながら、それぞれの日々をつくっていくように、私たち小田急グループも、誰かを思うことから、一人ひとりにとってのより良い暮らしを描いていきます」と。

アイミタガイ(相身互い)と通ずる部分があり、私自身、この言葉を大事にしたいなあと思いました。

■この通信がご不要の方は1枚目にお名前ご記載の上、FAXしてくださいませようよろしくお願いいたします■

【発行元】

バス事業者、旅客・貨物輸送事業者が求めるシステムの構築から運用までをサポート！

株式会社神奈中情報システム

〒254-0034 神奈川県平塚市宝町3番1号

平塚 MNビル11階

TEL: 0463-22-8804 FAX: 0463-22-8815

発行責任者: 神奈中情報システム

株式会社
神奈中情報システム



大森



米山